

看護研究バックナンバー(内容紹介)

MAR
APR

Vol
47
No
02

特集 | 看護学において若手研究者をどう育てるか? (Ⅱ)

- 若手研究者育成の歴史を紐解く—日本学術会議若手アカデミーの活動と看護界の展望 西村ユミ
- 若手看護学研究者としてどう育っていくか?
—日本看護科学学会研究・学術情報委員会の若手調査に携わった立場から 深堀浩樹

【座談会】

- 若手研究者が考えていること—“看護学”から何を創造するか

落合亮太, 濱吉美穂, 佐藤一樹, 坂井志織, 西村ユミ

- 〈座談会を聞いて〉 吉沢豊予子

●特別記事

スウェーデンにおける看護学研究の展開(1)—ウメオ大学から発表された最近の研究の概観から
クラスヨーラン・サーレン, ウルフ・イサクソン, ウルリカ・オストルンド, クリスティーナ・ラーモス,
ブリットマリー・リングレン, ペル・エナーション, クリスティーナ・ユートゥベリ, ロースマリー・イサ
クソン, セナダ・ハイダレヴィッチ, プリティンゲル・サーヴェマン
〈翻訳〉佐々木明子, 津田紫緒, 小林秀行

●原著論文

高年初産婦の産後入院中の睡眠期と覚醒期における身体活動量分析—夜間母子同室の有無による影響の検討
森恵美, 土屋雅子, 佐伯章子, 岩田裕子, 前原邦江, 坂上明子, 小澤治美, 森田亜希子, 前川智子

●連載

統計学のキー・ポイント—「検定」に焦点を当てて・2 検定と標本数の関係 高木廣文
看護における質的研究の前提と正当性・8(最終回) 研究についての〈現実〉(後編) 家高洋
Words, words, words. 研究と言語—質的研究のために⑭ コミュニケーションと対話 江藤裕之

JAN
FEB

Vol
47
No
01

特集 | 看護学において若手研究者をどう育てるか? (Ⅰ)

- 将来の看護学を構築する卓越した若手研究者をどう育てるか 吉沢豊予子
- アジアにおける若手研究者育成の方略 牧本清子

【学協会, 大学院の立場から若手研究者の育成を考える】

- 日本学術会議, 日本看護科学学会の立場からの提言—課題と展望 小松浩子
- 看護学研究者をどう育てるか?—日本看護研究学会の見解と方針 中木高夫
- 千葉大学大学院看護学研究科長としての立場からの提言 宮崎美砂子

●特別記事

断片投稿とおすすめ著者資格—教員評価システムと学位審査制度がおよぼす影響 中木高夫

●連載

統計学のキー・ポイント—「検定」に焦点を当てて・1(新連載) 検定の基本的な考え方 高木廣文
看護における質的研究の前提と正当性・7 研究についての〈現実〉(前編) 家高洋
Words, words, words. 研究と言語—質的研究のために⑬ 教養としての研究と読書 江藤裕之

NOV
DEC

Vol
46
No
07

特集 | Person-centred Care の理論の現状と看護研究としての展望

- Person-centred Care の理念と動向 鈴木みずえ
- Person-centred Care をめざした認知症ケアマッピング(DCM)の理論と海外の動向 水野裕
- Person-centred Care をめざした認知症ケアマッピングにおける研究の動向
田島明子, 鈴木みずえ
- ケアスタッフの Person-centred Care の意識や実践を測定するための尺度の開発に関する研究の
動向 内田達二, 鈴木みずえ
- 地域における認知症ケアマッピング(DCM)を用いた施設間相互評価の有効性
桑野康一, 鈴木みずえ, 下山久之, 遠藤英俊
- 急性期病院における Person-centred Care をめざした高齢者集団ケアの取り組み—認知症ケア
マッピング(DCM)の導入と展開 吉村浩美, 鈴木みずえ, 高木智美, 江上直美

●連載

看護における質的研究の前提と正当性・6 看護研究におけるケースの知の意義(後編) 家高洋
Words, words, words. 研究と言語—質的研究のために⑩
認識されたものを認識する—フィロロジについて 江藤裕之

